

# 登山月報

平成19年度全国山岳遭難対策協議会を開催…1  
 平成19年度山岳共済会の事業予算決定…1  
 平成19年度遭難対策委員会総会(京都)を開催…2  
 英国登山評議会(BMC)国際ウィンターミーティング報告…3  
 JMA ……7  
 寄贈図書 ……7  
 UIAA 総会 HP をリンク ……8  
 編集後記 ……8

## 平成19年度全国山岳遭難対策協議会を開催 —富山・とやま自遊館に登山関係者 220 人集まる—

7月5～6日、富山市のとやま自遊館で全国山岳遭難対策協議会が開催され、全国から登山・山岳救助関係者約200人が集まり、遭難事故の原因分析などから事故防止や救助技術の向上策などについて熱心な議論が行われた。

5日は開会式で富山県東野教育長や日山協田中会長の挨拶のあと、日山協参与の城所邦夫さんの「山の気象遭難 事故と対策」の講演があり、遭難・事故がおきやすい季節ごとの気圧配置など天気図を用いて解説された。その後、警察庁の稲垣好人課長補佐による「平成18年中における山岳遭難の概況」、福岡市消防局野口芳彦消防指令による「消防の救助活動について」、溝手康史弁護士による「指導者・引率者の法的責任」の講義があった。遭難の概況によると発生件数1417件(35件増)遭難者数1853人(169人増)死者・行方不明者278人



▲全山遭難会式に臨む来賓の皆さん

(5人増)と過去最悪であったが、無事救出も927人(232人増)であった。また、自衛隊のレインジャー部隊から技術を学んだ消防のレスキューも、ようやく三つ縫りロープから新しい装備、技術の導入へ転換が始まったとのことである。会場入口には最新の救助用品の展示が行われており、ロープなど

### 平成19年度 山岳共済会の 事業予算決定

—総額 3,780 万円—

平成19年度山岳共済会委託事業の内訳



- 競技会補助事業
- 国際交流事業
- 広報出版事業
- 登山技術向上
- 登山普及事業
- 遭難対策事業
- 自然保護事業
- その他事業
- 事務局管理費

### 日本山岳協会山岳共済会19年度予算

1. 収入		
項目	金額	内容
共済会費収入	42,000,000	42000人加入と予測
2. 支出		
項目	金額	内容
見舞金支出	1,100,000	
責任準備積立金	1,000,000	
共済会事務経費	2,100,000	
共済会事業費	37,800,000	広告費1,000,000円含む
合計	42,000,000	
3. 事業費支出の内訳		
項目	金額	内容
競技会補助事業	5,000,000	リード、ボルダ、山岳スキー、アイス、JOC
国際交流事業	4,600,000	UIAA、交流事業、海登研、海外奨励
広報出版事業	4,600,000	HP、登山月報
登山技術向上	3,200,000	競技部研修、クライミング講習、選手強化
登山普及事業	2,950,000	普及事業、全日、ジュニア、少年少女
遭難対策事業	1,600,000	遭難対策、レスキュー講習、中高年、事故調査
自然保護事業	800,000	自然保護
その他事業	1,300,000	AD、医科学、調査研究
事務局管理費	13,750,000	人件費、運営諸費
共済会事業費計	37,800,000	



▲山の気象遭難について講義する城所さん

レスキュー用品のほかに蓄光材料を用いた夜間でも視認可能な標識の提案や、レンタルの開始で注目される防水型の無線機などが展示され注目を集めていた。富山県岳連による歓迎懇談会には大勢の関係者が集まり、旧交を温め、最新情報の交換をしながら

富山の地酒を楽しんでいた。

6日は、「山岳遭難救助活動の現状と問題点」「山岳遭難の予防と指導」「学校登山における事故防止」の3つの分科会にわかれ討議が続けられた。第1分科会では最近では救助の主力がヘリコプターに変わったが、一方で最近、山岳で2件のヘリコプター事故が発生したこともあり、その救助の報告があり真剣な議論となった。第3分科会では富山大学杉谷キャンパス山岳部の奥大日岳での事故、富山県高体連登山専門部の加盟校、部員数の推移などの報告があり、事故対策から高校、大学の山岳部活性化まで幅広い内容の議論となった。これらの議論を、どう行政の施策や参加諸団体の活動に反映させていくのか、課題も多いが、山岳事故防止の呼びかけを採択し閉会した。

## 平成19年度遭難対策委員会総会(京都)を開催

6月24日(日)京都市に於いて遭難対策委員総会が開催され、事業報告や事業計画、レスキュー講習会や山岳遭難・捜索保険の今後について熱心な討論が行われた。前日には遭難対策委員研修会が開催され、京都市消防局によるAEDを用いたCPRの講習とレスキュー講習会の講習内容の確認が行われた。

### 1. 開会の挨拶：(株)日本山岳協会 城隆嗣副会長

「山岳遭難は昨今無くならないが、未来に向けて予防(指導委員会)と治療(遭難対策委員会)の境目は持たず、山岳事故防止に取り込んでいただきたい。」

開催岳連の挨拶：京都府岳連 粟飯原一成会長

### 2. 18年度事業報告

ア) 遭難事故防止のための研究・指導及び実態調査  
事故調査報告は、青山委員が帰国後ホームページで行う予定。

イ) 遭難対策研修会兼委員総会

6/24(土) 常任委員研修会

6/25(日) 東京都渋谷区神宮前 隠田区民会館

ウ) 山岳レスキュー指導者の養成(山岳レスキュー講習会)

〔夏山〕 福岡県(申込者が少ないため中止)



▲京都市消防局によるAED講習会

9/16(土)~9/17(日)

〔冬山〕 鳥取県大山 主管：鳥取県山岳連盟

H19 1/27(土)~1/28(日)

エ) 山岳レスキュー技術体系化 ロードセルによる強度テスト実施 3/18(日)

### 3. 19年度事業計画

ア) 遭難事故防止のための研究・指導及び実態調査

イ) 山岳共済の普及推進

ウ) 遭難対策研修会兼委員総会

6/24(日) 京都府

エ) 全国山岳遭難対策協議会の共催(文部科学省他)

7/5(木)、7/6(金) 富山県

オ) 山岳レスキュー指導者の養成(山岳レスキュー

講習会)

〔夏山〕 京都府を予定 場所は滋賀

〔冬山〕 秋田県を予定

カ) 山岳レスキュー協議会

キ) 雪崩防災週間、雪崩防災シンポジウム(国土交通省)の後援

ク) 文部科学省登山研修所等の遭難対策関係事業への協力

ケ) 山岳レスキュー技術体系化

コ) 遭難事故の調査研究

・ UIAA との懇談会(10月総会にあわせ日程調整)

#### 4. 今後のレスキュー講習会の進め方について(討議)

・ 主管岳連として開催時の問題点

平成18年度夏山講習会主管 福岡岳連、冬山講習会主管 鳥取岳連より報告

・ 講習依頼があった場合、講師を派遣する方法に変更したらどうか。

・ 3年先までの開催地決定を行った方が、主管岳連の負担が減る。

・ ブロック毎で開催地を決定する。

今回の討議で出た意見等を各岳連および常任委員会に持ち帰って討議を行うこととする。

#### 5. 山岳遭難・捜索保険の改善について

①岳連主催の講習会で起きた事故の保険責任について  
指導委員が謝礼を受け取って講師を行った場合

と、プロガイドを雇って行った講習会での事故では、保険対応に違いがある。

②疾病についての変更箇所について

③海外保険の内容別対応を追加

④25日を過ぎると丸1ヶ月加入できないことは改善すべき

#### 6. その他

①ロードセルによるロープ強度試験の結果報告

②講演会「ヘリコプターによる救助について」京都市消防局

7. 閉会の挨拶: 日本山岳協会 城隆副副会長

#### 8. 出席者

各都道府県山岳連盟(協会): 秋田・中川広三郎、群馬・松永幸雄、東京・小池正器、山梨・植松一好、新潟・楡井利幸、井春文、長野・高橋政男、富山・広瀬弘、石川・米田正明、福井・渋谷好司、帰山孝之、静岡・前川朝夫、愛知・高橋優、三重・佐藤信裕、岐阜・山下信重、滋賀・竹村喜一郎、兵庫・一本松文夫、鳥取・香田隆史、岡山・植野慎治、福岡・戸高和義

日本山岳協会: 副会長 城隆副、遭難対策委員会委員長代行 西内博

遭難対策常任委員: 永井伸幸、瀬藤武、町田幸男、町田雅美、渡辺輝男、中丸忠男、近藤孝久、大沼正博、宮永幸男、石田英行

## 英国登山評議会(BMC) 国際ウィンターミーティング報告(前号よりつづく)

### チップングルートの衝撃

4日目、衝撃のその日は大荒れの天気朝から本降りの雨だった。「これからミックスクライミングのゲレンデに行くが君たちもどうか?大きなケイブがあるので雨でも登れる。」という誘いに気楽にのった。着いてびっくり、前衛の小さな壁にせせこましくボルトが打たれているではないか。日本の城山より近い。あまりにも興味が湧かず早々にケイブの方に行ってみたのだが……。岩質は頁岩、発破の跡が生々しく残っておりこのケイブ自体が人工構造物のような雰囲気だ。威圧的な前傾壁(130度位)に拓かれているルートはプロジェクトを含めて4本。右奥のルートがM10のルートだそうで早速トライしてみた。フッキングエッジの8

割は削って造ったと明白にわかるもので「これでいいんだらうか!?’と疑いたくなるようなルートだった。ケイブの入り口にはフリークライミングルートもあり、8bとグレーディングされたそれにはドリルでくり貫かれたポケットホールドが続いている。私たちは非常に驚き、見たくないものを見てしまった時のような苦い思いが込み上げてきてものだ。何故だ?とんでもなく不可解な問題を突きつけられたような気分させられてしまった。

この日のホストは、デイブ・マクロード。ロブが「スコットランドで最も優れたクライマーだ。」と誇らしげに評する彼は、28歳の若手オールラウンドクライマーだそうである。

2006年度に、Climbing誌からトラディショナルクライミング部門でゴールドピトン賞を受けた世界的に有名なクライマーで、世界最難のトラッドルート Rhapsody (E11 7a or 5.14c) を初登。そのトライの様子は夜のゲストプレゼンテーションでの映像で十分に堪能させてもらったのだが、トライ中にどう見積もっても30m以上の墜落を繰り返している。当然ボルトレス、激しいロングフォールにナッツのワイヤーがぶち切れるシーンもあって迫力満点だった。そしてさらに前述のケイブのルート(8b)のフリーソロシーンまでもがあった。

トラッドとスポーツ、全く違うジャンルのクライミングをどういう心境で続けているのだろうか？私達の質問には、「それぞれをクライミングとして楽しんでいる。特に分けて考えてはいない。」と答えてくれた。ショッキングな体験ではあったけれども、これから日本のクライミングを考える上で大きな示唆を与えてくれた一日だった。

## 新ルート開拓

最終日に再びベンネビスへ登りに行くチャンスに恵まれた。今回は、デイベと新ルート開拓にチャレンジするという得難い体験をすることが出来た。彼は、核心と目された3P目のリードを私に譲ってくれた。しかしやる気まんまんでトライしたもののどうしても超えられない。泥の詰まったコーナクラックを微妙なフッキングで身体を持ち上げるのだがハンクしている上にスタンスが乏しい。そしてセットしたプロテクションがなんともお粗末、墜ちたらかなり酷いことになるのは確実だ。幾度か試してみたのだが結局クライムダウンしてデイベにリードを交代した。さてデイベは長い時間をかけてプロテクションを丁寧にセットし、クライムダウンを繰り返しつつもハンクを超えていった。途中何度も「ファック！」を連発しながら奮闘している。抜け口の氷がグサグサでまたなんとも危ないムーブの連続だったようだ。フォローした僕達はあえなくロープにぶら下がる羽目になったが、スコットランド最高のクライマーの熱い登りを見ることができて魂が熱くなった。彼曰く新ルートのグレードは(VIII, 8)だそうだ。

予想以上にデイベはプロテクションにはかなり慎重なクライマーだった。大きいサイズのアングルやロストアローなど私がここ数年来持ったことがないピトン



類を用意していた。またヘキサセントリックも多用する。その理由はいたって実用的なものである。ここのベルグラがつき易いクラックではカムが全く効かない場合がある。ヘキセンやナッツはアックスのピックで丹念に叩き込んでいた。自分はその時思い止まって正解だったとホッとしたものだ。自分はプロテクションのセットが未熟だった。表面的な情報よりも自分で体感することがとても大事だ。氷の粘り具合、岩の硬さ、ピトンと岩の馴染み具合など実際に経験してみないとつかめないものがある。ベンネビスにはそこを登る独特のテクニックがあるのだ。大胆な挑戦も大事なことが少しずつ段階を踏んでいくことの大切さを改めて思った。これからも海外に登りに行く際はこのことを忘れないよう胆に命じておきたい。

## まとめ

あっという間に終わってしまった5日間のクライミングだったが、その短い体験をもとに考えたことを述べてまとめに代えさせてさせていただきたい。スコットランドのクライマーは「倫理」に縛られて登っているのではなくて「伝統」にのっとって楽しんでいるのだろう。直感的に感じたことなのだが実はとても的を得ているのではないかと考えている。

トラディショナルクライミングエリアでは「ボルトレス、クリーンクライミング、フリークライミング」といってシンプルなスタイルに基づいて登っている。後者の2つは可能な限り追求してゆくべき理想であって言わば最大限の努力目標。だが前者のボルトに関しては全くもって単純明快、以前から誰も使ってこなかったしこれからは使うことのない不要なものなのだ。そしてそれはもはやルール(意識し、自らを律するもの)



ですらない。「ベンネビスやカーンゴームズは未来永劫ボルトレス」ということは当たり前すぎて標語にする価値もないのだろう。グレードを押し上げる努力は大事なことだが、あえてボルトを導入してことを成そうとは考えない。何故ならそれは伝統であるから。そしてその伝統こそが誇りなのだと思う。試みるべきは新しいスタイルではなく新たなラインなのだ。ベンネビスの壁はマニアックで重箱の隅をつつくようなクライミングと擲擧されても実際色あせるところか輝いてすらいるのではないか。ゴールドクラッシュルートの1つ、Tower Ridgeが冬季初登されたのが1894年。100以上経て未だに新ルートが開拓され続けている。壁に残置物が無ければどれ程ルートが追加され続けようとも壁は変わることなくそこに在り、私達はいつまでも自由に登ることが出来る。

一方でスコットランドのクライマー全てが、「岩場でのボルト使用」を否定している訳ではなかった。ロブやデブを含め若い世代はかなり自由にクライミングを楽しんでいる。決して原理主義者というわけではない。「ボルト」というものの存在がクライミングに与える影響があまりに大きいものであるがゆえに、そのハードルを越えてしまった岩場では何でも有りという感じになってしまうのだろう。かなり確信犯的に割り切ったルート設定がなされているのもそう考えると得心がいく。それぞれのスタイルを楽しんではいるが完

全にジャンルの違うものとして分けて考えているのだろう。

ちなみにトラディショナルクライミングエリアでは冬と夏のルートとでそれぞれにスコッチグレードがつけられている。例えば私たちがベンネビスで登ったアルパトスは(M,5)、前記のデブが初登したルート「ラブソディ」は(E11,7a)とルートの難易度とピッチまたはムーブのそれを併せて表記している。それに対してボルトルートはミックスではMグレード(M10)、フリーではフレンチグレード(8b)を使っている。

伝統はいかにして伝承されるのだろうか。それはクライマー一人一人が守るものというよりは、そのエリアごとに根付いている思想という解釈が合っているように思う。エリアごとの伝統こそが大事であって一般論的な倫理項目(ボルトやチッピングの問題)よりもまず先にある。ベンネビスの素晴らしさを保ちながら一方では実験的ルート開拓によって流行のクライミングも行なわれている。スタイルはエリアごとによって決まっているという完全なまでに分離したあり方がスコットランドの素晴らしさを保っている重要な鍵なのだ。これは実に日本の現状に示唆を与えてくれる。ボルトルートとトラディショナルルートは共存できるのか。かのアメリカのヨセミテの現状を見ればわかることだ。私は限りなく不可能に近いのではないかと思う。今注目を浴びている錫杖岳前衛壁もその点では先行きの舵取りは大変難しいだろう。どう共存をはかるのか、今まさに日本のクライマーの知恵が試されている。

ボルトを否定することは私には出来ない。ボルトルートもとても楽しいものだ。ただ私に言えることは、日本にもどこか1つくらい完全なトラディショナルクライミングエリアがあってもいいと思う。フリークライマーが見向きもしない岩も危ない山岳エリアならなんとなかならないだろうか。今そのために有志で何らかのアピールができないかと考えている。

「British Style」。イアン・パーネル氏のスライドショーのオープニングタイトルだった。これがしびれるくらいにカッコ良かった。「Japanese Style」。いつか世界のクライマー達に自信をもって紹介できる日がくることを願っている。日本の冬壁はスコットランド以上の魅力を秘めている。要は私達自身の問題なのだろう。



## 平成 19 年 6 月度常務理事会

日時 6月14日(木) 18:30～21:00

場所 岸記念体育会館 504号室

出席者 田中会長

城、坂場、大森各副会長

内藤専務理事

青木、尾形、北山、相良、佐藤、高山、

永井、西内、長谷川、福田、牧野、本木、

若月各常務理事

委任 仙石常務理事 (19名中18名出席)

### ◎報告事項

1. 専門委員会動静 5月常務理事会以降 (5月8日～6月14日)

(1)5月10日(木)

国際部常任委員会 (出席者8名)

① 19年度海外委員総会・遭難対策研究会について

② 海外登山奨励賞について

③ 国際交流事業について

④ UIAA 松本総会について

(2)5月15日(木)

自然保護常任委員会 (出席者10名) +1

① 埼玉総会について

② 指導員規程の見直しについて

③ 手引き作成について

(3)5月26日(木)

競技委員会 (国体・クライミング) (出席者20名)

① 国体ボルダリング競技の運営シミュレーション実技研修

② 競技委員会の設立と今後の運営について

③ 競技委員会内の役割分担について

④ 国体リハーサル大会におけるリード・ジャパンカップ予選について

⑤ 上級講習会を終了した者に対する審判員・ルートセッター資格について

⑥ 競技委員会ブロック別研修会の実施方

法、内容検討について

⑦ 日山協公認ルートセッター認定講習会の地方実施の要望について

(4)5月28日(木)

遭難対策委員会 (出席者11名)

① 平成18年度行事報告について

② 平成19年度事業計画について

③ 遭難対策委員会研修会について

④ 全国山岳遭難対策協議会について

(5)6月4日(木)

指導委員会 (出席者14名)

① 日体協ヒヤリングについて

② 指導委員会総会について

③ 検定基準の修正案項について

④ 登攀研修会 (山口) について

(6)6月12日(木)

国際部常任委員会 (出席者10名)

① 平成19年度海外委員総会・遭難対策研究会

② 海外登山奨励金交付の施行について

③ 国際交流について

④ UIAA 松本総会について

⑤ その他

### 2. その他の主な事項

(1)5月20日(木)

「平成19年度総会の開催」東京岸体育会館

(2)5月20日(木)

「平成19年度第1回理事会の開催」

東京岸体育会館

(3)6月2日(木)～6日(日)

「第21回リードジャパンカップ大会」

神奈川県秦野市 (結果は別紙の通り)

(4)6月2日(木)～6日(日)

「第27回日本登山医学学会」山形蔵王遠

刈田温泉 大森副会長 医科学委員7名

(5)6月9日(木)～6月10日(金)

「指導委員研修会兼総会」東京晴海会員

会館 城副会長 参加者約50名

指導員制度の変更点について研修

(6)6月8日(木)～6月10日(金)

「第62回国民体育大会(秋田わか杉国体)

リハーサル大会」秋田県

天候不順の中実施 縦走:約80名、クライミング:約20名参加

(7)6月9日(木)～6月10日(金)

「JAAA 理事会」東京プラザエフ

田中会長 八木原・神崎国際部常任委員

海外からネパール、台湾、香港 参加

### 3. 議事

(1)「平成19年5月常務理事会議事録の承認」について

○田中会長より別紙により提案される

★提案どおり承認される

(2)「平成19年度総会、第1回理事会の議事録の承認」について

○田中会長より別紙により提案される

★一部修正して承認される。

(3)「常務理事の担当業務」について

○田中会長より別紙により提案される

★提案どおり承認される

(4)「総会における緊急動議に対する対応」について

○田中会長:何らかの形で早急に対応する必要があるのではないかと。お金の借かるといイメージを払拭したい。競技委員会としての対策を考えているのか。

○高山常務理事:国体でのボルダリング競技への不安だと思いが、競技委員会としては秋田のリハーサル大会の折、東北各県と話してかなり理解して貰えたと思う。さらに詳しい内容についてメールのやり取りで納得して貰えるようにしたい

○内藤専務理事:東北各県は日山協から、具体的な良い方法を提案して欲しいと言っている。

○坂場副会長:東北だけでなく、全国の岳連へ文書を送る必要がある。

○西内常務理事:会長からクライミング施設の普及を促す意味も含めて、日体協へバックアップのお願いの文書を出して欲しい。などの意見が出て次のように決まる。

## 寄贈図書

### ●雑 誌●

山と溪谷社山と溪谷 7月号

東京新聞出版局岳人 7月号

台湾内政部營建署国家公園

中華人民共和國登山協会山野

### ●寄 贈 本●

大町観光協会針ノ木岳慎太郎祭、

50年の歩み

(株)本の泉社ひび割れた晩鐘

### ●会 報●

(株)日本オリンピック委員会 JOC

JAPANESE ALPINE CLUB

日本オリンピック・アカデミー

財団健康、体力づくり事業財団

京都下京山岳会

懐稜登高会

長野県山岳協会

(株)全日本ボウリング協会

神奈川県山岳連盟

(株)国立公園協会

高校生新聞社

日本ヒマラヤ協会

(株)日本武術極拳連盟

新潟県山岳連盟

(株)大韓山岳連盟

日本テントシート工業

(株)日本ゲートボール連合

三重県山岳連盟

コリアン アルパイン クラブ

日本勤労者山岳連盟

日本万歩クラブ

(株)日本体育協会 スポーツ少年団

日本山岳文化学会

名古屋 やまびこ山想会

富山山想会

山梨県山岳連盟

近畿山岳愛好会

(株)日本ユースホステル協会

大阪府立体育館

東京野歩路会

(株)日本山岳会

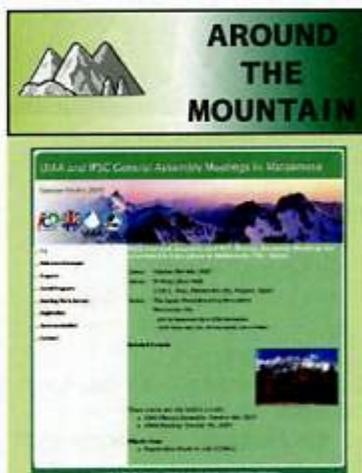
- ★提携への協力依頼の文書を送る。また、競技委員会では早急に話し合って対応策をまとめ、会長から各都道府県岳連へ発送する。
- (5)「日本山岳協会の組織体制」について
- 若月事務局長より別紙の通り提案される。また、内藤専務理事より各委員会の情報は出来るだけ専務理事へ送って欲しいとの要請があった。
- ★普及・指導は一人の副会長が担当した方がよいとの意見が出され、事務局長と専務理事で再考する。その他については提案どおり承認される。
- (6)「平成19年度専門委員会の編成」について
- 若月事務局長より今年は名簿を作成したいので、各委員会の委員長は常任委員の名簿を早急に提出して欲しいとの依頼があった。
- 学識経験者が分かりにくい、一本釣りはやめて欲しい、出席しない者は常任委員から削って欲しいなどの意見が出された。
- ★次回常務理事会で各委員会の人数を事務局長が提案する。
- (7)「事務局・財政委員会合同会議の定例化」について
- 若月事務局長より今年度から事務局長・専務理事が新しくなったので、しばらくはいろいろな事項について事務局・財政委員会合同会議で、話し合ってから決めるように定例会としたい旨、提案される。
- ★当分の間毎月、第一水曜日に事務局・財政委員会合同会議を行うことに決定。
- (8)「共済会運営委員会」について
- 西内担当理事より、共済管理委員会のメンバーを西内、青木、相良、若月をお願いしたい。会長、専務理事にも加わって欲しい。今年度は規則をきっちり決めて行きたい。HPも改善したいと提案される。
- ★提案どおり承認される。
- (9)「海外登山奨励金に関する規定」について
- 尾形国際部長より別紙により提案、さらに最高限度額を40万円として年間3隊まで助成したい、また第三条の選考委員会から固有名詞を外したいと提案される。
- ★提案どおり承認される。
- 続いて尾形国際部長より別紙により、UIAA松本総会の委員会組織の名簿が提案され、UIAA総会が10月7日に変更になったこと、イベント会社のISSにHP作成を依頼したと報告された。
- ・内藤専務理事よりIFSC、ISSCの総会についての確認して欲しいと依頼。
- ★提案どおり承認される。
- 00「確認事項」
- ①大分リハーサル大会とジャパンカップのその後について
- 高山国体委員長より日山協の予算を上回らないようにして実施したい。
- 内藤専務理事より、普及も兼ねてうまくやれるよう工夫して欲しい。

- ②クライミングワールドカップの取り組みについて
- 北山クライミング委員長より別紙の通り200万円テレビ朝日と契約したいと提案される。
- ★総費用について意見が出たが提案どおり承認される。
- ③東京アウトドアフェスティバル2007への出展について
- 若月事務局長より、6月22日(金)～24日(日)の三日間池袋サンシャインで開催、昨年同様ブースを出して共済の宣伝をしたいので、協力して欲しいと要請。
- 01「その他」
- ①山岳四団体役員懇談会の開催について
- 田中会長より別紙の通り、今年は労山が当番7月19日(木)19:00より労山事務所1階で開催されるので出来るだけ多くの常務理事に出席して欲しいと要請される。
- ②平成19年度社会人登山リーダー研修会1の開催について
- 田中会長より別紙の通りなのでPRして一人でも多く参加して欲しいと要請される。
- ③アンチドーピングについて
- 中川事務局長より、別冊「日本ドーピング防止規程」が配布され、よく読んで検討して欲しいと要請される。
- ④最高顧問 伊達篤郎氏(宮城)逝去について
- 田中会長より5月30日の葬儀に出席したと報告される。
- 02役員等の派遣について
- ①平成19年度遭難対策委員会総会の開催について
- 6月23日(土)～24日(日) 於 京都市  
派遣役員 城副会長、西内常務理事
- ②クライミング委員会総会
- 於 東京岸記念体育会館 6月17日(日)  
派遣役員 坂場副会長
- ③海外登山研修会兼海外交流委員会総会について
- 6月16日(土)～17日(日)  
派遣役員 大森副会長、尾形海外・国際交流委員長他
- ④平成19年度全国山岳遭難対策協議会
- 7月5日(木)～6日(金)

## 編集後記

警察庁の平成18年中の山岳遭難の概況が発表された。それによると発生件数1417件(35件増)遭難者数1853人(169人増)死者・行方不明者278人(5人増)と過去最悪であるが、無事救出が927人(232人増)であり、それを除くと実質増えていない。注意すべきは死者の増加であり、その原因分析が十分とは言えない。個々の事故対策も不十分で、個人情報保護の名目で詳細が不明な事故も多く、遭難を美化するに至っては言語道断である。

(広報 西内 博記)



### UIAA総会HPをリンク

<http://www.jma-sangaku.or.jp/UIAA2007/>  
UIAA総会を12月に控え、UIAA松本総会専用のHPが作成され、日山協のHPなどからリンクされた。海外から参加のメンバー向けすべて英語で作成されており、プログラム、会場へのアクセス、登録、宿泊などから構成されている。なお、UIAA松本総会の登録受付は日山協ではなく、すべてアイ・エス・エスが行う。

派遣役員 田中会長、西内常務理事、若月事務局長、専務委員、(城副会長)

### 4. 報告

- (1)自然保護指導員の認定推薦について  
長崎県山岳連盟 4名  
新潟県山岳協会 39名
- (2)19年度国体予選会報告  
①愛媛県、②長野県
- (3)「少年少女登山教室」の開催申請について  
①大阪府山岳連盟  
5月26日(土)25名(予定)  
②北海道山岳連盟  
7月28日(土)～29日(日)50名(予定)  
③青森県山岳連盟  
7月25日(土)～26日(日)30人(予定)  
④広島県山岳連盟  
7月22日(日)、28日(日)41名(予定)
5. 依頼、連絡、通知、案内等(別添)

### 登山月報 第459号

定価 100円(送料別)  
予約年間1,200円送料共  
昭和45年12月12日  
第三種郵便物認可  
(毎月一回15日発行)  
発行日 平成19年7月15日  
発行者 東京都渋谷区神南1の1の1  
岸記念体育会館内  
社団法人日本山岳協会  
電話 03-3481-2396  
FAX 03-3481-2395